

学校関係者評価書（令和2年度）

令和3年3月30日

○ 評価委員

林 敦史

一般社団法人岐阜県自動車整備振興会 教育部 部長

坂中 孝行

株式会社ネクステージ 整備部 部長

森 真人

岐阜トヨタ自動車株式会社 人事部 採用教育室 室長

渡邊 隆

元 中学校校長

福井 正美

度会 和也

本校卒業生

1. 目的

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため学校評価（自己評価・学校関係者評価）を実施する。実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価する。評価結果に基づき、学校として組織的・継続的な改善を図る。

2. 学校関係者評価

卒業生・企業・業界団体等の学校関係者などを選任し、令和元年度の学校業務について、学校が自ら行った自己評価結果についての評価を行い、改善に向け専門的な助言を行う。

3. 評価項目

評価項目（評価の観点4項目）は次による。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか ・学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切かどうか。

4. 実施方法

今年度は、コロナ禍の影響により、密室における多人数での会議を見送り、会議に提示する資料を各委員に送付し、それらに対する意見を集約し、これに対する学校側の意見を付して返付することで会議の実施とした。

なお、各委員に送付した資料は、当校で行った自己評価アンケートの集計結果とした。

手順は

1月に資料等を各委員に送付

2月中に当校へ返却

3月以降、委員からの意見集約及びその意見に対する当校のスタンスを記載し、委員に返送。

◎ 評価項目の達成及び取組状況について各委員からの意見

(1)教育理念・目標

[委員]

- ・ 自覚を高める自己点検と情報の共有・協働
- ・ 情報の共有・協働が見える化するコミュニケーション促進
- ・ 自主性の重視
- ・ 教育課程において、教えるのではなく、答に至る頭の使い方を教えることが重要

[学校]

- ・ 学科、実習において、各々の装置について構造やその働きを学習すると共に、生徒個人が点検・修理におけるプロセスを組み立てて実習する等、自主性を持った行動ができることを目指します。

(2)学校運営

[委員]

- ・ 総定員充足率 80%以上の安定確保が目標
- ・ 少子化による入学生、入学希望者減少への取組評価がしっかりなされている。

[学校]

- ・ 広報担当を充実し、当校の特徴である「アフターフォローの充実」をしっかりとアピールしていきます。

(3)教育活動

[委員]

- ・ 日ごろの指導において、読み書きや発言力強化のウェイトを年々増加しているが、学生の質の変化も含め十分に対応できているか。
- ・ カリキュラム進行が優先となるが、もっと自発的な言動ができるよう、授業の内容（アクティブラーニング等）も含めて検討していく必要があるのでは。
- ・ 外国人留学生の入学で日本語の文書理解力をどのように教育するのか。
- ・ 整備の実施に当たり、基本的な構造・知識の理解が必要。
- ・ 個人が各自で考えを発言する雰囲気醸成がなされているか。
- ・ 自動運転装置の導入に伴い、教育すべき知識等の変貌が見られない。
- ・ 個人の理解力向上が重要。

[学校]

- ・ 自動運転装置等進化する自動車の技術に対応すべく、自動運転において必要な各センサーの構造、入力された情報の処理技術について学習するため、特定認証を受け、自動運転に係るセンサーの点検・整備を学習する。
- また、国が車検時に行う OBD 検査の実施に対応すべく、スキャンツール（外部診断機）を用いた検査方法等についても学習する。

自動車の基本的な構造・機能に関する学習も充実させる。

- ・外国人留学生に対しては、サブ教材として漢字等にルビを付したプリントを使用する等、日本語教育を平行で行うこととしている。

(4)学習成果

[委員]

- ・業界への関心、基礎学力・コミュニケーション力向上等、授業態度情報を共有し、遅刻・欠課に注視した肌目細やかな指導を進める。
- ・「個性や環境を把えた教育」「専門職スキルアップ」などに焦点をあてる。
- ・各自動車メーカー独自の技術を学習する
- ・基礎的な整備技術力の習得が必要

[学校]

- ・各教科に対する生徒の理解力を向上するため、定期的なテスト以外に小テストを実施するなどして、生徒の理解度を測定しつつ授業を進めることとしている。
- ・各自動車メーカーが行っている最新技術の出前講座を積極的に受け入れると共に、教師においても、参加可能な研修会への出席を推進する。

(5)学生支援

[委員]

- ・入学時前のオリエンテーションなどの必要性を感じます。就職活動が偏らないように進めるべき。
- ・外国人留学生の日本語学校開設に向けた検討をお願いする。
- ・認証工場等での現場実習を行い、整備しからの現場におけるノウハウの伝達があればベターと考える
- ・外国人留学生に対する生活支援等の拡充

[学校]

- ・文部科学省が行っている「職業実践専門課程」において、整備工場と連携し、生徒の整備工場における実習の更なる充実を図る。
- ・留学生には出口をしっかりと確保する等、卒業後においても日本で働ける環境を整備する。

(6)教育環境

[委員]

- ・学力の向上を目指すだけでなく生徒・学生一人一人の個性や環境を把握しながら生徒・学生教育や専門職としてのスキルアップを期待する
- ・自動車製作の見学も知見を広めることに役立つ。

[学校]

- ・教師の趣味を生かした行動に生徒を参加させる等、生徒個人の人間性等を把握し、就職等に寄与できるように勤める。

(7)学生の受け入れ、募集

[委員]

- ・中高生にも分かりやすく親しみが持てる学校や「退学の理由・経緯」を踏まえての対応検討。「学生一人ひとりの個性や環境を把えた教育していくかが重要だと思う

- ・退学率の減少について、生徒・学生の受け入れの中で必要項目だと思います
- ・企業奨学金の拡充

[学校]

- ・生徒の自主性の確立、物事を行ううえでのプロセスの重要性の理解等を教育において実施していくことで、学校への関心の向上を図る。
- ・企業支援金については、これまで以上に拡充すべく、企業に働きかけを行うこととしている。

(8)財務

[委員]

- ・経費節減、教育研究経費・管理経費の在籍者数に応じて意図的削減が必要
- ・生徒の確保が重要

[学校]

- ・生徒が充実した学校生活を送るための設備の充実をしつつ、不要なものについては処分を進めることとしている。

(9)法令等の遵守

[委員]

- ・養成施設指定規則に準拠する教育環境整備および管理などが必要
- ・外国人留学生に、日本の作法、伝統等を教示することが重要
- ・道路運送車両法、同保安基準の遵守を徹底する

[学校]

- ・外国人留学生については、定められた制度をしっかりと守ることで、日本の伝統、作法を育むこととしている。
- ・国から自動車整備士養成施設の指定を受けていることに鑑み、指定に必要な規則等の遵守、施設等の維持は言うまでも無く、生徒等に対しても、関係法令の遵守を教示する。

(10)社会貢献・地域貢献

[委員]

- ・職能団体の研修会や役員会等開催に必要な教室使用または学校施設使用など
- ・地域貢献が大切

[学校]

- ・地域密着型のボランティア活動等を実施することで、規模は小さいものの世間から感謝される人間の育成に貢献する。